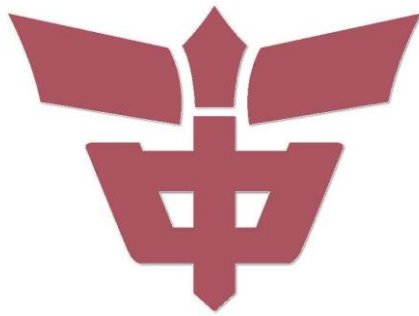


令和 6 年度

学校評価報告



小浜市立小浜中学校

令和 7 年 3 月

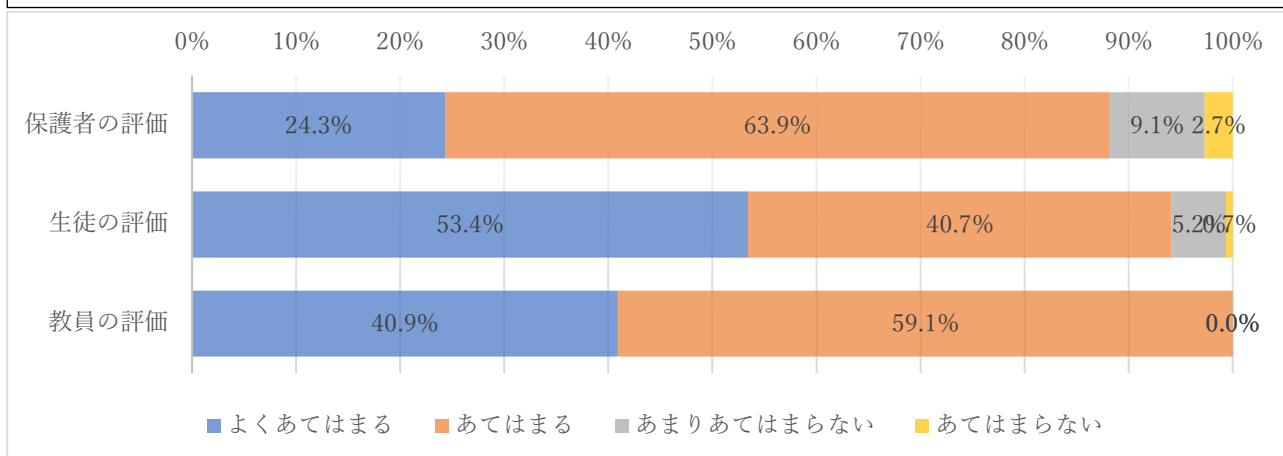
『生徒・保護者アンケート』（わが校評価アンケート）結果をもとに、『自己評価』を行い、その結果を踏まえて『学校関係者評価』（家庭地域学校協議会にて評議委員による評価）を行いました。以下に、その結果を報告します。

豊かな心と健やかな体

◆自己を高める安心の場づくり

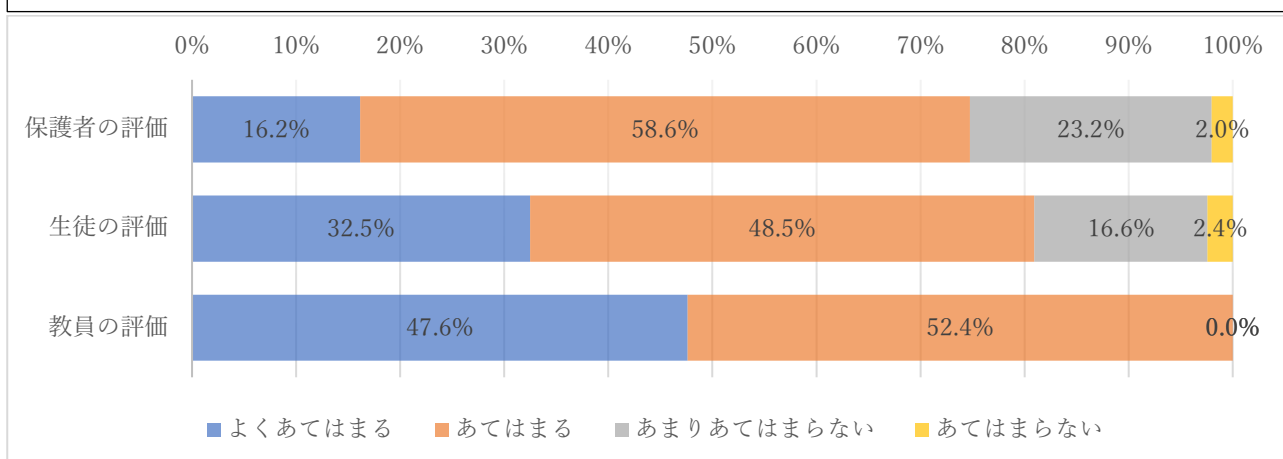
目標：自他を尊重し、認め合う中で自分の良さ個性が発揮できる学級づくりを充実させる。目標値：90%

保護者設問 我が子は、学級の中で安心して自分らしく過ごすことができている。
 生徒設問 私は、学級で安心して自分らしく過ごすことができている。
 教師設問 私は、一人ひとりの良さや個性が発揮できる学級づくりや授業づくりに取り組んでいる。



目標：縦のつながりを重視し、失敗を恐れず困難に立ち向かえる風土を醸成する。目標値：85%

保護者設問 我が子は、失敗を恐れずに挑戦しようとしている。
 生徒設問 異学年との交流に積極的に取り組み、成長を感じることができている。
 教師設問 異学年で交流する場を設定することができた。



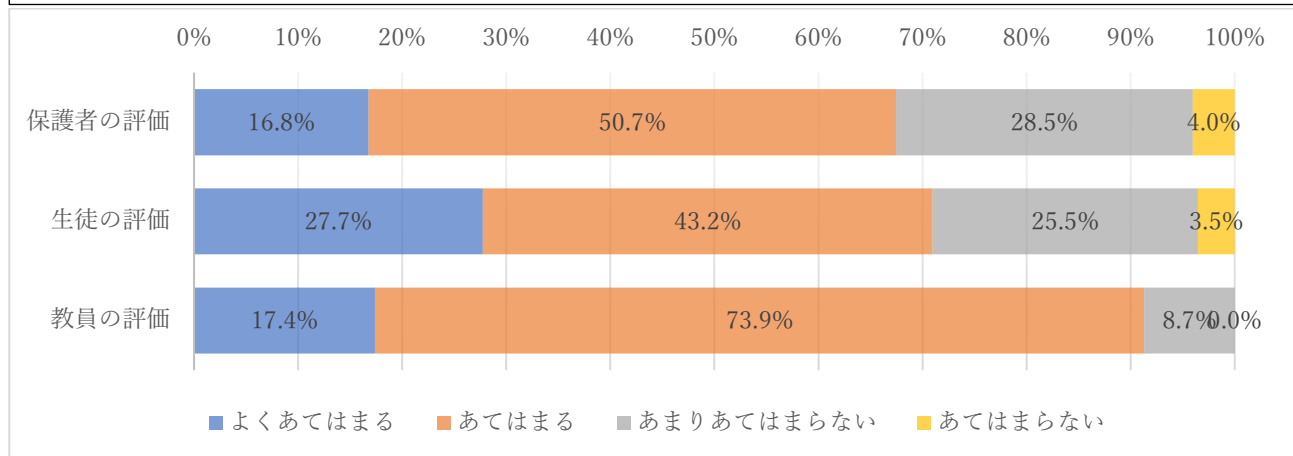
◆心と体の健康づくり

目標：食と健康（睡眠）への関心を高め、生活習慣を自己調整する力を向上させる。目標値：80%

保護者設問 我が子は、十分な睡眠時間を確保した生活ができるように心がけている。

生徒設問 私は、十分な睡眠時間を確保した生活ができるように心がけた。

教師設問 生徒の睡眠の習慣の改善につながる、継続的な指導ができている。



<分析と対応策>

学級づくりについては、概ね良好な結果を得たといえる。ただし、アンケートで否定的な回答をする生徒はその都度かわっているので、全教職員で共通理解を図り支援していく。

縦割り活動については、教員評価は100%と高いものの、生徒の実感との間にギャップが見られる。縦割り活動を通して学びがあった一方で、人間関係作りが苦手な生徒にとっては負担になっている可能性がある。今後はアサーション（自分も相手も大切に自己表現）などの人間関係づくりに関する取り組みが必要かもしれない。また、否定的な回答をした生徒への個別対応を強化し、全教員で共通理解を図る。

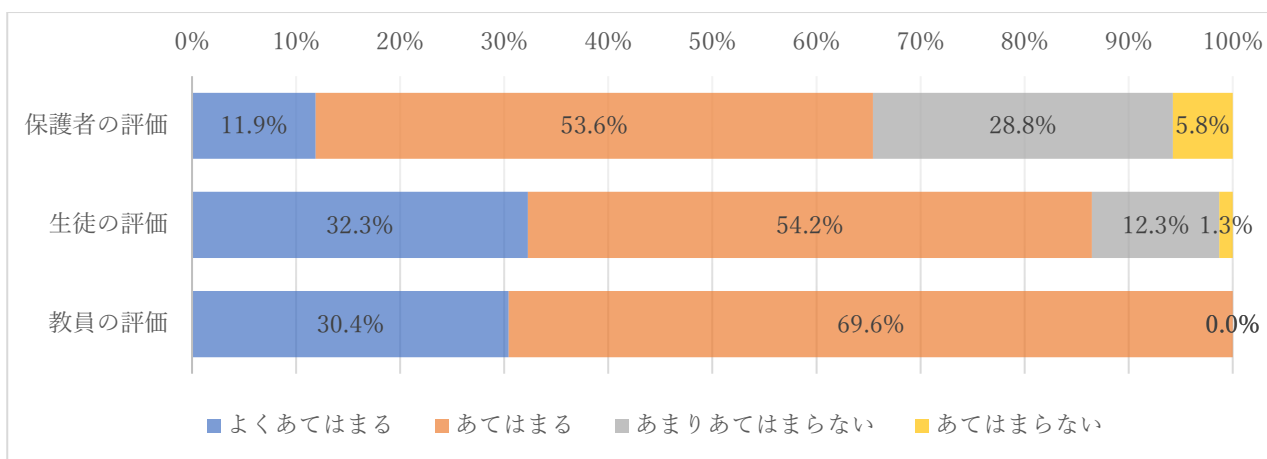
生活習慣については、生徒と教員の達成率は増加しており、教員の働きかけや生徒の意識の高まりが成果に繋がっていると考えられる。しかし、1年生の否定的な割合が増加しており、生活習慣に関する指導が必要である。保護者の達成率が減少した点については、学校の取り組みを発信し、家庭との情報共有を図ることで改善していきたい。

楽しむ学び

◆共に学び「自ら学びとる」授業づくり

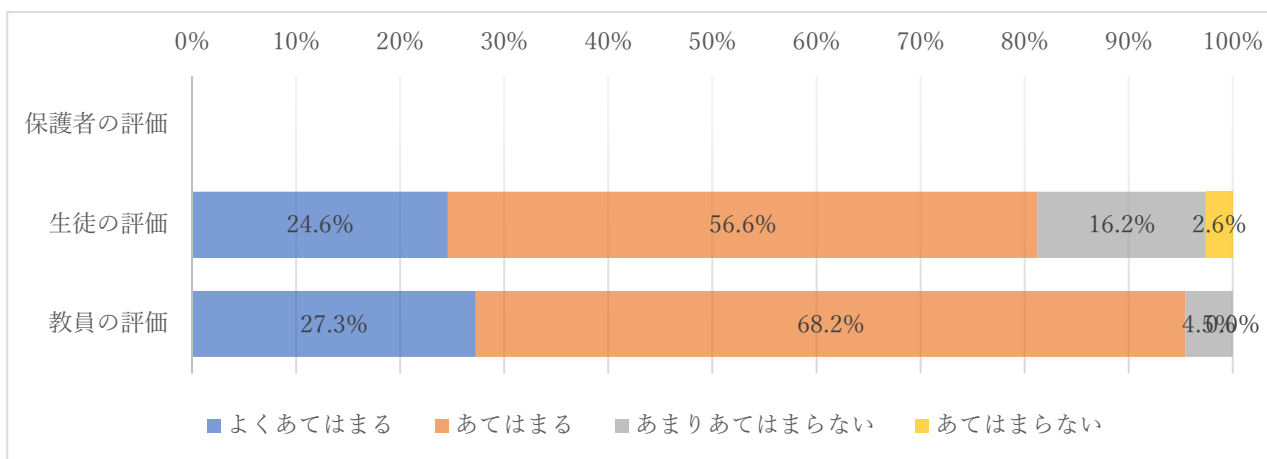
目標：多様な学び方を通して、生きて働く知識・技能を定着させる。目標値：80%

保護者設問	我が子は、自分なりにやり方を工夫しながら学習内容を定着させる取組ができている。
生徒設問	私は、自分にとってよい学び方を選び、工夫しながら学習に取り組んで、学習内容を定着させることができている。
教師設問	生徒自身が自分の学び方を選び、工夫しながら学習に取り組むことを通して、生きて働く知識・技能を定着させる支援ができている。



目標：教科を探究的に学ぶ機会をつくり、自己調整しながら自分で学習サイクルを回せるようにする。目標値：80%

保護者設問	(授業づくりに関することなので設問なし)
生徒設問	私は、教科を学ぶ際に、自己調整しながら自分で学習サイクルを回すことができた。
教師設問	教科を探究的に学ぶ機会を設け、生徒が自己調整しながら学習サイクルを回す授業を実践した。

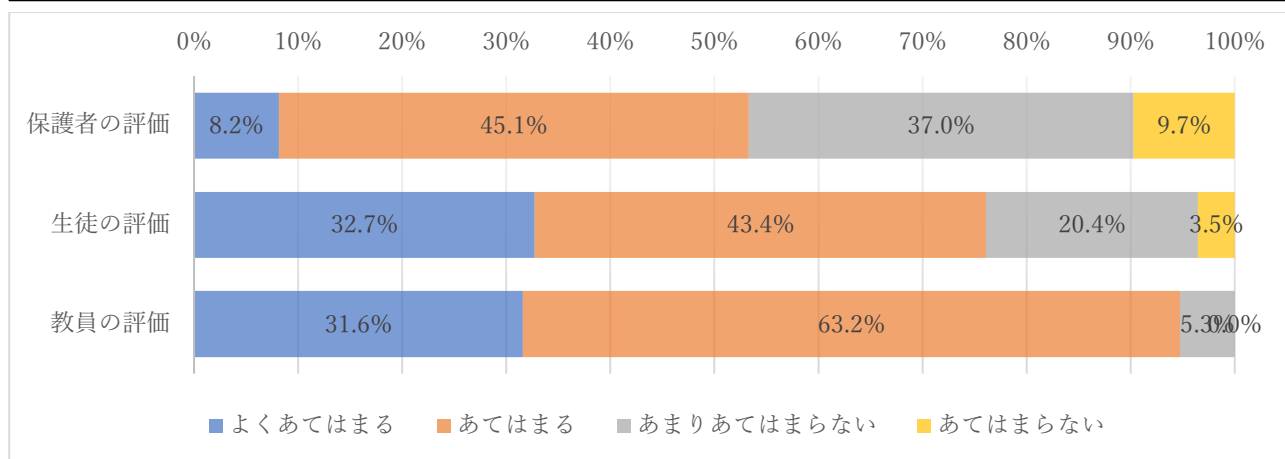


目標：「はまナビノート」「SAT」「スタディクラブ」を連動させて活用し、自学力を育成する。目標値：90%

保護者設問 我が子は、家庭で「はまナビノート」を活用しながら、計画的に生活しており、習慣的に学習に取り組むことができている。

生徒設問 私は「はまナビノート」を活用して計画的な学習に取り組み、定期的な「SAT」に向けて学習を進めている。また、SAT前には「スタディクラブ」を利用し、自主的に学習を深めている。

教師設問 生徒が自己調整しながら学習を深めるために、「はまナビノート」を日頃から活用し、「SAT」と「スタディクラブ」を通して、計画的な学習に取り組むよう支援ができている。



<分析と対応策>

教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）や自己調整学習に関する研修、授業公開や教員相互の授業参観を通して、教員の授業実践が改善され、浜中の授業スタイルが確立されつつある。学校便り「和楽の光」を通して学校での取り組みを周知した結果、保護者の理解は向上したといえる。一方、2・3年生の保護者の肯定的な回答の増加に対して、1年生では減少が見られた。これは、中学校生活への適応や学習内容の高度化により、家庭学習の様子が悪化している1年生がいる可能性を示しているといえる。

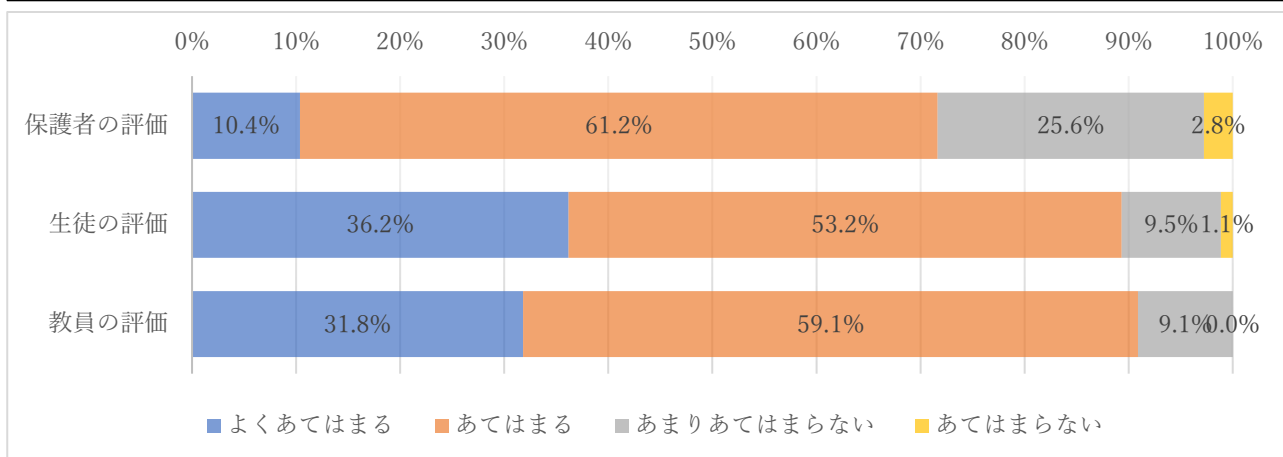
フォーサイトアプリ（「はまナビノート」に代わるデジタル手帳アプリ）は2学期から導入され、教員や生徒は活用の有用性を感じているものの、保護者からの理解は課題として残る。スタディクラブ（自律的な放課後学習の時間）は、生徒からの肯定的評価が大きかった。今後も保護者への理解と参加者の増加に取り組んでいきたい。

愛し愛される学校

◆自分の未来づくり

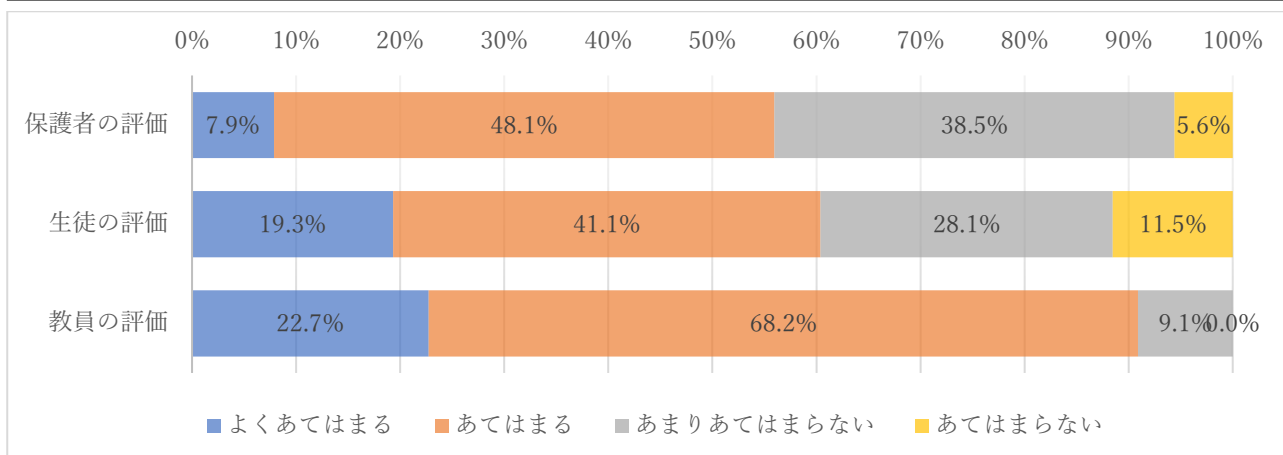
目標：地域探究により、ふるさとへの思いと「志」を醸成し、キャリアデザイン力の育成を図る。目標値：80%

保護者設問	我が子は、探究的な学習において、ふるさとや自分の生き方について考えを深めることができています。
生徒設問	私は、探究的な活動を通して、ふるさとや自分の生き方について考えを深めることができています。
教師設問	探究活動において、ふるさととのつながりを意図し、個々の生き方へとつながるような支援ができています。



目標：地域をフィールドにした学習活動や地域の行事やボランティア活動に積極的に参加し、体験からの学びを充実させる。目標値：85%

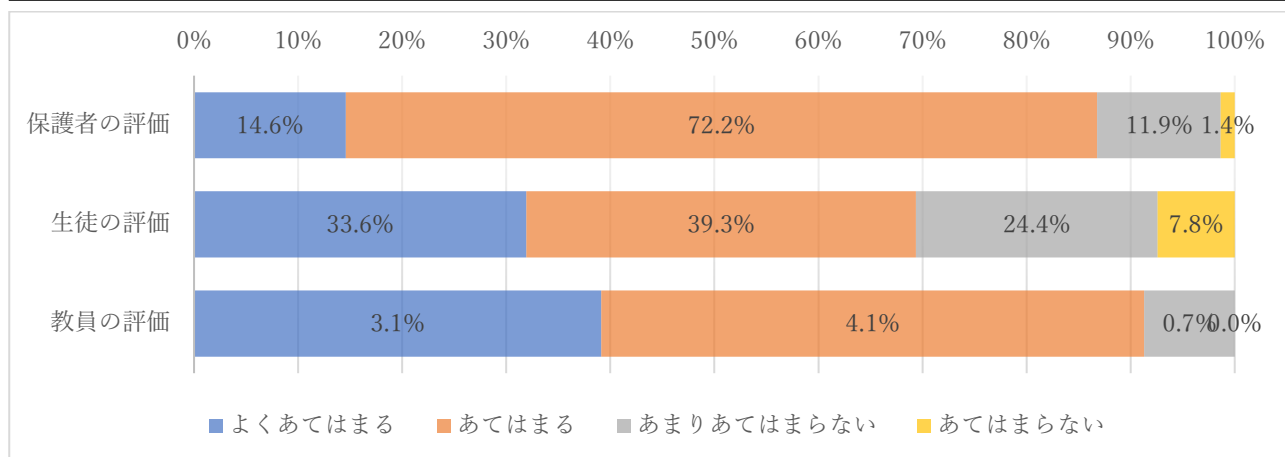
保護者設問	我が子は、進んで地域の活動に参加し、体験をとおしてよりよい生き方についての学びを深めることができています。
生徒設問	私は、身近な地域の活動に進んで参加し、よりよい生き方について学びとることができています。
教師設問	学校と地域の相互のつながりが深まることを意図して、生徒に対して地域の活動への参加を推奨したり支援したりすることができています。



◆信頼される学校づくり

目標：学校公開・通信・ブログ等、保護者への広報を工夫し、生徒の活躍を発信する。目標値：90%

保護者設問	学校公開、お便り、学校ブログ等で生徒の活躍の様子などを知ることができた。
生徒設問	私は、「和楽の光」を読んで考えたこと(書いたこと)を、おうちの人に伝えることができた。
教師設問	方法を工夫して、生徒の活躍の様子を発信することができた。



<分析と対応策>

1学期と比較して、地域とのつながりについての生徒と教員の意識は大幅に上昇した。これは、地域に関する学習活動や地域での聞き取り、現地調査の機会を増やすことができたこと、縦割りでの探究活動を通して地域とのつながりを意識する機会が増えたことが要因と考えられる。

一方で、自身の生き方につなげる意識はやや減少し、活動に対する意識付けが必要である。また、体験的な学習が子どもの成長につながったと回答した3年生の保護者は増加したが、保護者全体としての評価は微減しており、周知や情報発信を強化する必要がある。

学校便り「和楽の光」についての生徒評価が7割弱と低かったのは、自身が記述したコメントを保護者に伝えていない（見せていない）生徒が一定数いることが原因と考えられる。生徒と保護者の架け橋でもあるという意義を伝え、確実に保護者へ渡るよう指導をしてく。学校公開週間の来校者は増加していないものの、毎回来てくださる保護者は一定数いる。保護者や地域により開かれた公開となるよう、時期や参観内容を工夫する。